The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	源氏物語の享受作品”あさきゆめみし”の日韓比較 ：王権・呼称・待遇を中心として
Author(s)	越野, 優子
Citation	詞林. 2013, 53, p. 34-46
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/67655
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

源氏物語の享受作品 “あさきゆめみし”の日韓比較
――王権・呼称・待遇を中心として――

越野　優子

1．はじめに

筆者は今まで源氏物語と韓国語翻訳の問題を考えて来た。拙稿（2009）でまず、源氏物語の本文のうち、国冬本と称される伝本の特異な世界を示しつつ、該当箇所の韓国語訳の構築を試みた。直近の拙稿（2012）では、源氏物語の享受作品である謡曲『須磨源氏』を考える過程で、“享受”という言葉を“影響”の一環と捉えなおすならば、翻訳もその範疇であろうとの観点から、一章を費やして翻訳版源氏物語（韓国語と英語を挙げた）の光源氏の呼称を考えたが、この直近の拙稿において、参考程度に漫画『あさきゆめみし』にも言及した。日韓両国での文化的影響力の大きさを考えたとき、漫画（韓国語では만화）は単なるサブカルチャーではなく、決して軽視できない存在と考える。そこで本稿では、日本語版と韓国語版の『あさきゆめみし』を中心に据えつつ、呼称の問題を契機に両者の比較について論じる。

2.『あさきゆめみし』のもつ問題―日韓の先行研究から―

最初に『あさきゆめみし』についての基礎知識を確認しておく。

漫画版の源氏物語は、現在は43種類程あり[(1)]、古典作品としては非常に数多いものと考えられる。その中でも『あさきゆめみし』は、周知の通り、著名作家の大和和紀による作品で販売数の大きさからも、代表的な存在と言っていいであろう。1979年12月号から月刊『mini』講談社に不定期に連載され、『mimi Excellent』同誌27号（1993年）で完結した。売り上げは累計1700万部を超える大ヒット作品で、各言語に翻訳されている。高等教育の入学試験の古典問題にも頻出してきた。この長編かつ難解な古典を読むのは困

難であるが、漫画であれば画の力で頭に入りやすい。そのようなこともあり、源氏物語の漫画の多くの漫画の中でも最大の購買数を誇るこの漫画は受験生のバイブル的存在となった[(2)]。

しかし年間数百本と言われる源氏物語それ自体の研究に比べ、『あさきゆめみし』の研究自体はまだ日本でも韓国でも数は多いと言えない[(3)]。『あさきゆめみし』の論文の経緯をみると1994年から、“現代の源氏物語絵巻”という副題で論考が登場し、現時点で論文題目としては13件が検索し得たが、このうち古典教育の副材を内容とするものが３本ある[(4)]。今回日韓比較を考える立場から、韓国での『あさきゆめみし』出版状況を調査してみた。韓国の論文検索データベースで知り得たものは、一件のみ、김수희（2008）が検索出来たがこれも古典研究の内容である。国宝絵巻の東屋（一）の絵を見る浮舟の姿にもあったように、視覚を活用した王朝物語の原始的な読み方を、文章の読解だけで無味乾燥になりがちな古典の授業に取り入れようという試みは当然のことに思われ、その点についてやはり漫画の影響力の強い韓国も同様の状況である証左と考えられる。

韓国語版あさきゆめみしは翻訳者이길진により2008年11月20日初版1刷の1巻～2009年8月28日初版の10巻までが出ている。現在韓国で入手できるこのデラックス版をここでは使用する。尚、全巻調査したが、言語が異なるだけで、絵画（漫画の絵の部分）は全く同じものである。

ここでまず、前出の김수희（2008）と日本の先行論文を対比させつつ、日韓の『あさきゆめみし』の問題をまとめてみたい。

まずよく言われることであるが、『あさきゆめみし』は執筆当初は作家大和和紀独自の解釈で、例えば、桐壺帝と更衣の出会いや、更衣の死去の際の幼い源氏との会話などが追加されていたが、徐々に原文に非常に忠実になっていっていることである[(5)]。中川（2008）に大和和紀のインタビューが引かれており、そこで徐々に全体の把握の為に原作に忠実である必要性のこと、更に草子地は臨場感を欠くことになるので採らなかったとの大和和紀の言がある。原作者の言であるから信頼できる証左と捉えることが出来る。と同時に、徐々に評判の漫画となり源氏の副読書のような稀有の位置を得るにつれて、保守的にならざるを得なかったことも考えられるであろう。

次に今度は逆に『あさきゆめみし』独自ではなく、漫画というジャンル全

体の問題であるが、例えば菊川（2000）にあるように「マンガはビジュアル化のために、人物の対話を中心とした事件として展開していくことが要求される。それゆえ、状況の説明や、心中思惟のように動きのないものは描きにくいことが予想される」、中川（2008）も「マンガは視覚性が勝った表現だから、人人との対話や感情、事件の推移は画によって示される」とする。김수희（2008）も「주지하는 바와 같이 스토리 만화는 글과 그림으로 구성되어 있다. 즉, 만화의 경우는 현대어역이 채워주지 못하는 시각적인 면을 채워줄 수 있는것이다.」（試訳；ストーリー漫画は文と図で構成されている。即ち、漫画の場合は現代語駅が満たすことができない視覚的な面を満たすことができる）と述べている。つまり漫画は視覚的なジャンルの芸術なので、吹き出しと言われる部分に会話文が記述される対話の形式で作成されるということである。地の文の連続では、漫画としては独白の連続になり読者の側の娯楽という点からも問題があるであろう。『あさきゆめみし』が源氏物語の漫画の中で稀有な位置にあることは前述の通りであるが、同時に漫画である以上は免れられない対話部分の多出という問題を有している。その対話部分の多出という問題は、後に述べるが日韓比較の呼称に関する問題を生み出す元になっている。

3.『あさきゆめみし』の王権の論理―日韓の相違―

高野（2008）にもある通り、『あさきゆめみし』の冒頭は「わたくしは母を知りません　はかなげで　少女のようで……すきとおるように美しい人だったといいます　愛だけによって生き　その生命を断ったのもまた愛であった……と」（日本語版）と始まる。

韓国語版では、「나는 어머니를 알지 못합니다. 가엾고 서너와 같고……투명할 듯이 아름다운 분이셨다고 합니다. 사랑을 위해서만 살고 그 생명을 끊은 것도 또한 사랑이었다……고 합니다」（試訳；私はお母さんを知りません。いたいけな幼児のようで……透明な美しい方だったといいます。愛のためだけに生きてその生命を断ったのもまた、愛だった……そうです）となる。日本語版とほとんど差異は無いが、一点だけ上げれば、日本語版では「美しい人」が韓国語版は분（この方などの「方」）になっている点である。やや敬意が上がってい

るとみられるが、これについては後に呼称と敬語の章で述べる。

この冒頭について高野（2008）は、「『あさきゆめみし』はなぜ原作から逸脱してまで、冒頭表現をあらたに創造したのだろうか。まず、『源氏物語』「桐壺」巻の冒頭は、「いづれの御時にか」という表現によって、物語が天皇制という政治システムを物語の展開装置として組み込んでいることを確認したい。天皇と寵妃との個人的な恋愛が、皇位をめぐる政争に発展することを当初から織り込んでいたのである。『源氏物語』第一部の内容は、皇位争いに敗れ、臣籍に下った光源氏が、准太上天皇となり栄華を極めるというものである。王権獲得の物語として読まれることもある。恋愛を横糸に、政治を縦糸として編まれたのが『源氏物語』であった。しかし、『あさきゆめみし』は、政治的物語というよりも天皇と寵妃との悲恋を前面に立てて、構想されたように考えられる」としている。物語の冒頭というのは、その物語の最初の印象を読者に与える重要な場面で、前述のように徐々に源氏物語に忠実になっていった『あさきゆめみし』ではあるけれども、最初の目論見としては、おそらくは女性読者を対象として、作者の考えは愛の物語として執筆する考えであったのであろう。

この点を김수희（2008）がどう論じているかを見ると、「내용적으로도 천황의 부인이자 계모에 해당하는 후지쓰보（藤壺）와 주인공 히카루겐지（光源氏）와의 밀통을 근간으로 한 것으로서 왕권에 대한 이해가 없으면 오독하기 쉽다는 점에서 소녀만화와의 거리감은 상당하다고 할 수 있다.」（試訳：内容的にも天皇の夫人であり継母に該当するふじつぼ（藤壺）と主人公光源氏（光源氏）との密通を根幹としたこととして、王権に対する理解がなければ誤読しやすいという点で少女漫画との距離感は相当あると言うことが出来る）と論文の冒頭近く述べており、ここで、「천황」（天皇）「왕권」（王権）と直訳でもはっきり訳すことが出来る言葉が出てきている。しかし김수희（2008）も前掲の『あさきゆめみし』の冒頭に触れており、これが『あさきゆめみし』独自のものであることを論じていながらも、その理由としては、「이상과 같은 서정적이고 애상적인 도입부는 겐지의 수많은 여성편력을 용인하는, 즉 어머니에 대한 그리움 때문에 그 모든 것이 시작되었다고 하는 듯한 양상을 취하고 있다. 혼다 마스코（本田和子）씨의 지적처럼 겐지의 수많은 여성편력의 원인을 어머니에 대한 그리움 때문이었다고 비극적으로 표현하고 있는 것이다.」（試訳：

以上と同じ叙情的で哀傷的な導入部は、源氏の数多くの女性遍歴を容認する、すなわち母に対する懐かしさのためにその全てのものが始まったというような様相を取っている。 本田和子氏の指摘のように、源氏の女性遍歴の原因を母に対する懐かしさのためだったと悲劇的に表現していることだ）として、亡き母への想いに特化した論調になっている。この論文の冒頭には、天皇や王権への関心を見せながらも、これ以降もこの김수희（2008）で天皇や王権が論じられることは無い。その理由とは何だろうか。

一つには母子の問題に引きつけて考察しているところに、韓国の強い母子文化の問題が考えられてくる。韓国で「ママボーイ」（韓国語마마보이）という言葉があり、これは日本の所謂「マザコン」のことであるが、兵役のある国として、男子の出生が望まれ、生まれた男子と母との結びつきは極めて強い。この点が考えられる。しかし最も大きな問題は天皇や王権を論じることについての躊躇があったことであろう。

「천황」（天皇）「왕권」（王権）という김수희（2008）の言葉であるが、王権はともかくも「천황」については、韓国では通常「일왕」（日王）を使用する原則（傾向）がある。資料として、임종건（2012）「일왕이 아니라　천황이라고？」 2012년 11월 02일（금）09：37：30[6]（日王では無く天皇だと？）を挙げたい。これは新聞のコラムとして記者がまとめているものであるが、この中で「제국의 천황은‘황제 중의 황제’,‘하늘이　점지한（Devine）황제’라는 의미의‘덴노’입니다. 천황의 일가는 만세일계（萬世一系）입니다. 기원전 660년부터 현재 125대인 아키히토（明仁）황제까지 2,672년이 지속됐고, 그래서 일본인은 천손（天孫）이라고 주장했습니다.

중국 황제들이 천자（天子）라고 한 것에 대해 일본은 중국의 역대 왕조는 역도（逆徒）의 무리들이 권력찬탈을 되풀이 한 것에 불과하고 진정 하늘이 내린 황제는 천황뿐이라고 주장했습니다. 그런‘인종우월론’을 바탕으로 이웃나라들을 교화의 대상으로 보고 침략했습니다. 그 점에서 유태인을 학살한 나치와 크게 다를 바도 없습니다.

지구상에서 제국이 사라지고, 입헌군주제가 채택되면서 황제（Emperor）호칭도 사라지고 국왕（King）만 남았습니다. 그럼에도 유일하게‘살아 있는 황제’로 남아 있는 게 일본의 천황입니다. ' 인간선언 ' 과는 전혀 맞지 않는 호칭입니다. 일본이 침략을 속죄하지 않을 뿐 아니라 제국주의 향수를 못 버

리고 있는 시점에서 우리가 먼저 천황을 고유명사라고 의미를 축소하는 것은 섣부릅니다 .」を挙げておく。コラム中の、「‘皇帝中の皇帝’」は日本の大王（おおきみ）とする古代の呼び方に通じるものであろうが、 韓国側の国民感情を反映したこのコラムのような意見がやはり大勢を占めている状況もあり、そうなると『あさきゆめみし』の元となった源氏物語自体が、“天皇になれなかった皇子のものがたり”(7) という内容である以上、深入りは避けたということもあるであろう。

但し、深入りはともかく、この김수희（2008）に「천황」(天皇)「왕권」(王権）と訳すことができる言葉がそのまま記されている点もまた事実であり、実際『あさきゆめみし』と同時に源氏物語の韓国語版に「천황」の言葉は出てくるのであり、その点は別の章で述べたい。翻訳には文化が如実に反映されるのであり、その差異こそが興味深いが、韓国語訳にも多くの挑戦と躊躇がある。

4. 韓国語版あさきゆめみし―呼称の論理―

第3章では日韓の『あさきゆめみし』全体について、冒頭を中心に述べた。本章では筆者が継続課題としてきた呼称の問題について、『あさきゆめみし』に特化して言及していきたい。

まず桐壺巻から末摘花巻までを収録した第一巻（日韓同じ）では、生まれたばかりの光源氏は『あさきゆめみし』（日本語版）では「ええ御子さまが……」「男御子さまがお生まれになりましたのよ……」（まわりの女御）[美しい……若宮]（桐壺の更衣の独白）となっているのが、韓国語版では「예 , 옥동자가…….」（ええ、貴公子が／試訳。以下同）「사내아기님이 태어났어요…….」（男の赤ん坊様が生まれました）「예쁜 도련님이…….」（美しいお坊ちゃまが／独白化）となっている。日本版では皇室の言葉である「御子」「男御子」が韓国語版では訳出されず、単に貴顕の人との体の訳である。

次に、更衣の死後三年たち、日本語版「光るの君よ」韓国語版「히카루 도련님」（ひかるおぼっちゃま）と女房達に誉めそやされていた場面が描かれている。唐突に「光るの君」が登場するわけだが、日本語版では光の漢字のもつ表意文字としての性格から、この君の呼称の意味は察せられやすい。しかし韓国語版では“히카루”（HIKARU）という固有名詞的扱いなので、源氏

物語に知識を有する読者及び漢字の素養のある読者以外には、この呼称の意味は分かりにくい可能性がある。後に、光源氏が新しく入内した藤壷女御と共に美しさを誉めそやされる場面（日本語版「桐壺の若宮さまのお美しさは光り輝くよう……」「そして藤壷の女御さまは輝く日の神のよう……」）では、韓国語版「기리쓰보 도련님의 아름다움은 빛나는 해와같고……」「그리고 후지쓰보의 뇨고님은 빛나는 해의 신과같다……」（桐壺のお坊ちゃまの美しさは輝く太陽のよう。そして藤壷の女御様は輝く日の神のよう）がある。ここで輝き合う二人に言及されているが、ここでは「기리쓰보 도련님」（桐壺のお坊ちゃま）とあり、桐壺の更衣（あるいは桐壺で育った）お坊ちゃまという意味は付加されても、“히카루”（HIKARU）との関係は読者に不明なままであるから、依然として“히카루”は固有名詞扱いである。なおこの箇所は源氏物語にも存在し、世人が源氏の美質を誉めそやし光君とお呼びしたという、所謂光君の命名伝承とされる部分である。

また、幼い源氏が、更衣の死の記憶が幼かったせいで死に際の事を覚えておらず、何故他の皇子にいる母が自分だけ無いのかと拗ねる場面がある（これは源氏物語には無い）。それに対し一人の女房が、日本語版「源氏の君……お小さくて……おかあさまが亡くなったのを覚えてはいらっしゃらないね」と述べている。韓国語版ではここは、「겐지노기미……」「어려서……어머니가 돌아가신 것을 기억하지 못하는군요」（源氏の君……幼いのでお母様が亡くなったことを覚えていないのですね）とある。ここが『あさきゆめみし』の、源氏の君という呼称の初出の場面であるが、この呼称は元服と臣籍降下の後の呼称であるから、日韓ともに『あさきゆめみし』の勇み足と言える。実際はこの後にある元服の儀式の折、帝が、日本語版「きょうよりは源氏の君」韓国語版「오늘부터는 겐지노기미」(今日よりは源氏の君）と述べる場面が『あさきゆめみし』にある。そして韓国語版では欄外に「겐지는 이이야기의 주인공」（源氏はこの物語の主人公）「〈기미〉는 아랫 사람을 경칭으로 부를 때 쓰는 말」（〈君〉は目下の人を敬語で呼ぶとき使う言葉）と注釈がある。日本語版、韓国語版『あさきゆめみし』とも、この場面の前に、高麗の相人が観相をして源氏の類まれな美質に驚愕し国父（국부）の相を見出すが、同時にそうなると国難の相も見えることを述べる場面が描かれており（源氏物語にもある箇所である)、その後左大臣を思しい貴顕が日本語版「……それで源の姓をお与

えになったと申されるのですか？」、韓国語版「그래서 겐지라는 성을 갖도록 했단 말인가?」（それで源氏という姓をもつようにしたということで？）という場面があり、韓国語版のみ「겐지」という言葉に対して、欄外に注があり、そこに「당시 황족은 성을 가지고 있지 않았기에 성을 갖는다 함은 일반 백성이 된다는 뜻」（当時皇族は姓を有していなかったのに姓を持つと言うということは一般の民間人になるという意）と分かりやすく書かれている。日本語版にはこのような説明は無い。古典教育の教材としてしばしば取り上げられてきたことは前述したが、この源氏姓の問題（臣籍降下）について、韓国版の方が細かく配慮していると言えるが、一方では「光る君」の説明は無いのであり、呼称に対して欄外注まで付ける周到な点を考え合わせると、韓国語版『あさきゆめみし』は、特に源氏物語への知識がない読者に関しては“히카루”をそのまま固有名詞としてあえて意識的に読むようにしたと考えられる。

もう一つ、この場面の韓国語版の欄外注で「황족」（皇族）とあることに留意したい。先の源氏誕生の折には「御子」という言葉を韓国語版が使用しなかったことを指摘したが、欄外にはこう記述しているのである。また左大臣が源氏の元服の後、日本語版「わたくしの妻は帝の御妹……源氏の君にはおば君にあたります」、韓国語版「나의 아내는 황제의 여동생……，겐지노 기미께는 숙모뻘이 됩니다.」（私の妻は皇帝の妹……、源氏の君におかれましては、叔母に当たります）と、「황제」という言葉が出て来ている。「께」は呼称の後に付いて、敬意を表す言葉なので、ここで左大臣から光源氏への、帝の皇子への敬意がみてとれる場面である。左大臣との会話の後、源氏は元服後の挨拶に藤壷の女御を訪れるが、その際の源氏と藤壷側のお付きの女房の会話が興味深い。日本語版「（源氏が藤壷付きの女房に）女御さまにごあいさつを……」「（女房が藤壷に）藤壷の女御さま……源氏の君さまが……」は韓国語版では「（源氏）뇨고님에게 인사를……（女御様に挨拶を）」「（女房）뇨고님 겐지노 기미께서（女御様、源氏の君におかれましては……）」（下線筆者）となっている。韓国語版の傍線部「에게」は目上には使わない呼称の接尾辞であり、これを女御に源氏が使用している体で記述していることと、また逆に女房が、「겐지노 기미께서」と目上に使う呼称接尾辞を使いながら源氏の来意を伝えているところに、源氏の元服後の身分の高さを意識させる記述の使用になっていることが、韓国語版からはうかがえる。この後、御簾で隔てられた対面

で藤壷と源氏は、日本語版「（藤壷）このたびはご元服おめでとうございます」「源氏の君」「（源氏）御簾を……あげてはいただけないのですか……」、韓国語版「（藤壷）이번에 관례를 올리게 된 것을 축하해요（この度は元服おめでとうございます）.」「겐지노기미（源氏の君）」「（源氏）발을 올리면 안될까요？（御簾をあげてはだめですか？）」のようなやり取りである。藤壷の「축하해요」よりも高い敬意を表す言い方である「축하합니다／축하드립니다.」は使用されていないし、源氏の返答も同様の語尾「～요」で終わる形である。女房達が媒介する公的な時は官位の敬意が規定通りしめされながらも、当人同士の対面では日本語版のような敬語でまといきった表現ではない。この点は、日本語版の方が、元服後はっきりと距離が置かれた二人の関係を敬語で表していると言えよう。呼称の接尾辞「께」の言葉から敬意の問題に発展させたが、敬意の問題は次章で本格的にみることとして、もう一度天皇の呼称に話を戻すと、「황족（皇族）」「황제」という言葉が帝に用いられ、使い分けられているところに訳出の工夫もみられるのが既に『あさきゆめみし』の第一巻であり、源氏物語にしても桐壺の巻では、このように天皇および皇族の呼称について多様な姿が見える。更に天皇の名前がはっきりと「太上天皇になずらふ」旨が記される藤裏葉巻は、『あさきゆめみし』第６巻にあたるが、ここでは准太上天皇の言葉が「준태상천황（准太上天皇）」と、はっきりと記されている。皇族の訳出について韓国語版『あさきゆめみし』も試行錯誤の中にあるように見える。

もともと『あさきゆめみし』だけではなく、源氏物語自体、전용신（1999）訳『겐지이야기』では「임금」（君主）が登場し、김난주（2007）訳『겐지이야기』では「천황」（天皇）の記述があるといった具合であった[8]。享受の中に翻訳というジャンルがあり、更にその中で漫画という形態は登場人物の対話が多くなる特徴をもつので、呼称それ自体だけではなく、対話という相手との相互関係の中で呼称がどう使われているかを考えていく必要があるであろう。特に源氏物語の呼称は、王朝物語故に敬語という待遇表現と緊密に関わりあっている。この待遇の問題は日韓では異なる部分があり、それが呼称の問題を更に複雑にしていると思われる。

5．韓国語版あさきゆめみし―上下関係の論理―

韓国語は絶対敬語の社会で日本語が相対敬語の社会であるとされている[9]。この韓国語の絶対的に揺らがないことを基本とした上下関係からくる敬語体系が韓国語版『あさきゆめみし』でどのように描かれているか、先に「ママボーイ（마마보이）の例を出したが親子という分かりやすい参考として次の場面をみることとする。

桐壺の更衣がいよいよ死去の際、母桐壺の枕元に呼ばれた幼い光源氏であるが、もちろんまだ母の死など理解できる年齢ではない。いぶかしげな源氏に更衣はこのように語りかける。日本語版「宮さま……おいとまするときがまいりました」がまずそれで、その後に [ああ……おかあさまはあなたにこれ以上何もしてさしあげられない（中略）けれども吾子よ] と独白のような語りかけのような定かではない台詞が続く。これは源氏物語には無い場面である。韓国語版『あさきゆめみし』がどうなっているかをこの場面で見ると、「아기야…… 」「……작별할 때가 왔구나……」「아아……이 엄마는 더 이상 너에게 아무것도 해 줄 것이 없나（中略）그러나 내 아들아……」(赤ん坊よ)（お別れする時が来たね）（ああ、これ以上、この母は貴方に何もしてあげられない（中略）でも私の息子よ）である。日本語版では更衣は、源氏に語りかけるときは、更衣は皇子である源氏に天皇の皇子としての敬語を用いているが、独白風の台詞のときは、母が自身の幼子に語りかける、敬語を使わない口調になっている。それに対し韓国語版は、どちらの場合も母子は上下関係として動かず、更衣が源氏に敬語を使うことはない。ここで使われている「아들아」は、母だけではなく、年下への呼びかけとしてよく使われる呼称である。その他の数少ないが描かれる更衣と源氏との対話の場面（散歩の際など）も同様である。母と子の関係は揺らぐことの無い絶対敬語でつづられている。

その点と比較すると、前章で触れた源氏と藤壷の場合のように、男女の関係や恋愛が絡む話となると、韓国語の敬語の原則も緩むようである。皇室の敬意のあり方を根底に置いた日本語版の敬意は逆に変わらないのであり、藤壷は源氏の元服後は、源氏に改まった敬語を使いそれが揺らぐことは無い。ただし源氏物語には描かれず匂わせるだけで終わった二人の逢瀬の際の藤壷の源氏への呼称は、最初は「源氏の君」とその突然の来訪を驚き、その後は、

二人の逢瀬の実際の場面では「光る君」であった。これは韓国語版でも全く同様で、最初の応対の場面は「겐지노기미」（源氏の君）であったけれども、後は「히카루 도련님」（ひかるのお坊ちゃま）という何回も呼び慣れた、昔のままの呼称で行っている。そして二人の二人称は互いに「당신」（日本語版もあなた）を使っている。韓国語の「당신」も日本語同様、目上には使えない言葉である。恋の場面には敬語のオブラードも全てかなぐり捨てるのは日韓共通ということであろう。

6．おわりに

以上本稿では、『あさきゆめみし』の日本語版と韓国語版を比較し、源氏の呼称を契機として、双方に現れる文化の相違について考察を試みた。最初に述べたように、単なる漫画化の域を超えて源氏物語の享受作品の重要な位置を占めることとなった日本語版『あさきゆめみし』であるが、その韓国語版は日本語版の名声もあり忠実な翻訳を心がけ、日本語版では無い箇所に欄外注を置くなどの工夫もうかがえた。しかし日韓の文化の相違が呼称を中心にそれだけではなく、敬意体系に表れていた。特に日本語の敬意の頂点である皇室敬語の問題も絡むわけであり、この点には微妙な距離感をもつ韓国での訳出には、やはり現況から当然と思われる点と、一方で試行錯誤のままの点が両者足跡を残していることがうかがえた。

「겐지노 기미」(源氏の君）は日本語版そのままを韓国語版も訳出しているが、日本語版の「光る君」は「히카루 도련님」（ひかるのお坊ちゃま）と、히카루を固有名詞のように扱っていることが確認できた。源氏物語から来る呼称である「겐지노 기미」（源氏の君）は、作品も『겐지이야기』として韓国でも著名であり、そのままでも「겐지」と記せば、ある程度の知識のある読者に分かりやすいが、「光る君」とした場合、これを韓国語で表すとなるとそのままでは誰のことか分かりにくく、そうしたことから訳出の際に、いっそ固有名詞として扱う形を選んだようにしたことが理由として考えられる。今回は紙幅の都合もあり、源氏誕生から元服、少し飛んで准太上天皇のあたりの呼称や敬語を考えたが、源氏の生涯にわたる呼称を、日韓の『あさきゆめみし』で比較する作業は当然残っており次の課題としたい。また『あさきゆめみし』というより源氏物語そのものから派生した問題として、日韓における

皇室への呼称の問題（天皇・日王）の問題は、文学や語学の分野から日本学（韓国でこの問題を取り合う際のジャンル分けでは通常はここに含まれることが多い）に広がり、難しい問題も含むが資料を中心に客観的な考察を継続して行いたいと考えている。いずれにせよ享受作品として源氏物語の現在に重要な役割を果たしている『あさきゆめみし』であるが、その研究は日韓に限らずまだ数少ない現況もあり、引き続きこの作品を軸に多方面から追うこととしたい。

注

（1）立石和弘「源氏物語加工文化データベース」（http://homepage3.nifty.com/genji_db/）に拠れば、延べ43の漫画が数えられる。このうち豪華版、翻訳版等繰り返し刊行されるのは『あさきゆめみし』のみである

（2）河添房江（2000）、立石和弘（2005）、山田利博（1994b）がこの漫画の他の源氏漫画の追従を許さない跳びぬけた状況について論じている。また、AMAZON の大和 和紀（著）, 伊藤 義司（監修）『試験によくでる『あさきゆめみし』～受験必勝！名作マンガで『源氏物語』徹底読解～』の内容紹介欄には、「受験生 &『源氏』入門者必読、古典入試出題率 No.1の『源氏物語』が名作マンガ『あさきゆめみし』＋原文・現代語訳×解説・練習問題の3ステップで、わかりやすく、おもしろく、覚えやすく、すらすら読み解ける」とある。また、김수희（2008）でも「실제로 · 아사키유메미시 · 를 읽었느냐 말았느냐에 따라 고교 국어 성적이 달라진다고 하는 웃지 못 할 이야기가 유포되고 있을 정도이다 .」（試訳；『あさきゆめみし』を読んでいないと古典の成績が悪くなるという笑い話がある）とある。

（3）国文学研究資料館の論文目録データベースで見た結果では、あさきゆめみし研究で13件該当する（2013年2月現在）。

（4）高野英夫（2008）、佐藤ちひろ（2006）、菊川恵三（2000）。

（5）山田利博（1994a）、中川正美（2008）など。

（6）http://www.smedaily.co.kr/news/articleView.html?idxno=3206中小企業新聞（韓国語）、論文中の翻訳は http://blog.goo.ne.jp/yakata_2009/e/820e58ce3de8ddd86b99eb2136470ac0を参考に訳出したが、以下である。「帝国の天皇は‘皇帝中の皇帝’、‘天が授けた（Devine）皇帝’という意味の‘テンノー’です。天皇の一家は万世一系です。紀元前660年から現在125代の明仁皇帝まで2,672年持続し、そのため日本人は天孫だと主張しました。中国皇帝が天子といったことについて、日本は中国の歴代王朝は逆徒の輩が権力簒奪を繰り返したに過ぎず真に天から下った皇帝は天皇だけだと主張しました。そのような‘人種優越論’を基に隣国を教化の対象と見て侵略しました。その点でユダヤ人を虐殺したナチと大きく異なりません。地球上から帝国が消え立憲君主制が採択されて皇帝（Emperor）の呼称も消え国王（King）だけ残りました。それでも唯一‘生きている皇帝’として残っているのが日本の天皇です。' 人間宣言 ' とは全く合わない呼称です。日本が侵略を贖罪しないだけでなく帝国主義の郷愁を捨てられずにいる時点で、私たちが先に天皇を固有名詞と意味を縮小するのはおかしなことです。」

（7）三田村雅子（2008）の副題
（8）この辺りの、源氏物語の原典の呼称については前拙稿で詳述した。
（9）白同善（1993）。

使用テキストおよび参考文献

・河添房江(2000)「メディアミックス時代の源氏文化―デジタル時代化への流れ」(『源氏研究』5　翰林書房)
・菊川恵三（2000）「マンガを用いた古典文学教育の試み―『源氏物語』と『あさきゆめみし』―」(『和歌山大学教育学部紀要（人文科学）』50)
・越野優子（2009）「『國冬本源氏物語』と韓国語譯について―未詳の傳本がみせる多様な物語世界」(『日語日文学研究』69－2)
・越野優子（2013）「源氏物語の享受作品の呼称について―“須磨源氏”を中心に―」(『日語日文学研究』84)
・佐藤ちひろ（2006）「『源氏物語』副教材としての『あさきゆめみし』」(『横浜国大国語教育研究』25)
・高野英夫（2008）「マンガによる古典教育の可能性―大和和紀作『あさきゆめみし』を教材として」(『信州豊南短期大学紀要』25)
・立石和弘（2005）「源氏物語のコミックとキャラクタライズ」(『源氏文化の時空』森話社)
・中川正美（2008）「『あさきゆめみし』と源氏物語」(『講座源氏物語研究』12)
・白同善（1993）「絶対敬語と相対敬語：日韓敬語法の比較」(『日本語教育論集』(国際交流基金) 3)
・三田村雅子（2008）『源氏物語　天皇になれなかった皇子のものがたり』(新潮社とんぼの本)
・山田利博（1994a）「源氏物語の“今”大和和紀『あさきゆめみし』」(『新物語研究』2　有隣堂)
・山田利博（1994b）「大和和紀「あさきゆめみし」―現代の源氏物語絵巻を探る」(『新物語研究』2　有隣堂)
・김수희（2008）「소녀만화『아사키유메미시』의 문화론―『겐지모노가타리（源氏物語）』와 고전교육」(『日本語文學』38)
なお、論文中の本田氏の論文とは、本田和子（1997）「少年「源氏」の絵姿を追って」(『源氏研究』2　翰林書房）のことである。

・大和和紀『あさきゆめみし』(デラックス版／講談社　2008)
・야마토와키『겐지이야기』(デラックス版／ AK 커뮤니케이션즈　2008)

付記：本稿は2012年12月15日韓国日語日文学会冬季国際学術大会（於　韓国　ソウル 숭실대학교／崇実大学校）での口頭発表に基づき、加筆・修正を加えたものである。

（こしの・ゆうこ　福州大学外国語学部日語系専任講師）